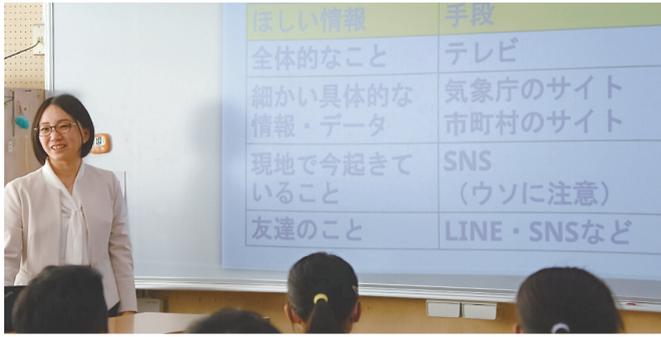


伝える！ 国連の仕事

情報の確かさを守るための取り組みを

インターネット上の情報に気をつけるための注意書き
2024年1月、埼玉県戸田市の武安小。



近年、新聞やテレビに加え、SNSでの情報発信も大切に考えるようになりました。若い人たちが中心に情報を得る手段として、XやYouTubeなどのSNSが選ばれるようになったからです。国連広報センターとしても、個人としてSNSでの情報発信の仕方に知恵をしぼる毎日です。SNSでは、投稿を見た人の生の反応やコメントが直接返ってくるのが特徴です。「情報が変わっていくも大丈夫」という手ごたえは感じられません。一方で、SNSで出回る情報や書き込みには注意すべき「落とし穴」もあります。

いろいろなインターネット上で交流でき、さまざまな情報やコメントが見られるSNS。国際連合(国連)の動きを伝える国連広報センターの所長、根本かおるさんは情報発信にSNSの活用が欠かせなくなつたといいます。SNSから情報を得る人たちが、どんな情報を持っているからです。ただ、SNSなどで出まわっている言葉や情報には「落とし穴」もある」と根本さん。国連も対策に動いているといいます。

社会に混乱広げるヘイトやフェイク



シェアする前に考えよう

- ❶ 誰が書いたのか？
- ❷ 情報源は何か？
- ❸ その情報はどこから来たのか？
- ❹ なぜその情報をシェアするのか？
- ❺ いつ発表された情報なのか？

#PledgetoPause



SNSなどであやまった情報やデマを他人に広めないために、国連広報センターが呼びかけているチェックリスト。「#PledgetoPause」は、シェアや投稿の前に「ちょっと待ちます」という意味



ねもとかおる 兵庫県出身。東京大学法学部卒。アメリカ・コロンビア大学大学院修了。テレビ朝日のアナウンサー・記者などを経て、1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)で勤務。国連世界食糧計画(WFP)広報官、国連UNHCR協会事務局長としても働いた。フリージャーナリストの活動を経て、13年8月から現職。

さらには「フェイク(偽せ)」と呼ばれる、意図的につられたその情報やまがった情報が広まることもあります。誹謗中傷やヘイトスピーチ、フェイクの情報は受けた個人だけでなく、社会全体に不安や混乱を広めるおそれもあります。そのため国連でも、ヘイトスピーチやフェイクなどの情報が広まらないうちから「偽せ」を「優先課題」として対策に動いています。

去年、「情報の誠実性」のための国連グローバル原則」をまとめたのも対策の一つです。原則は、情報の確かさを守るための行動を、各国政府や企業、市民団体などに求めています。人権や平和な社会を保つためでもあり、国連では世界の共通の考え方で広まるように世界中への呼びかけを続けています。

「一方、日本の中でも、フェイクの情報などを見分けられるように取り組みが出ています。去年1月に視察した埼玉県戸田市の美女木小学校では、ネット上の情報とどう向き合うかを考える授業が行われていました。授業では、過去の震災で実際にSNSで流れたフェイクの情報を紹介、「助けて」と所在地が書き

「去年、「情報の誠実性」のための国連グローバル原則」をまとめたのも対策の一つです。原則は、情報の確かさを守るための行動を、各国政府や企業、市民団体などに求めています。人権や平和な社会を保つためでもあり、国連では世界の共通の考え方で広まるように世界中への呼びかけを続けています。

「一方、日本の中でも、フェイクの情報などを見分けられるように取り組みが出ています。去年1月に視察した埼玉県戸田市の美女木小学校では、ネット上の情報とどう向き合うかを考える授業が行われていました。授業では、過去の震災で実際にSNSで流れたフェイクの情報を紹介、「助けて」と所在地が書き

「事実かどうかが立ち止まり考える

情報の誠実性のための 国連グローバル原則

世界で情報の確かさを守っていくための基本となるルールで、国連が発表しました。インターネットでうそや悪口が出回ること、偏見や暴力、紛争をおったり、選挙の信頼性や人権をおびやかしたりしている、といいます。

フェイクの情報やヘイトスピーチについて、いかなる目的でもやめるべきとしたほか、各国政府や企業、AI(人工知能)開発者などに対し、情報にさらされる子どもたちを保護する取り組みを進めることなども求めています。

(掲載：朝日小学生新聞 2025年2月9日掲載)